を求めなば、もとよりいふべし、されどしば〳〵すべきにはあらずかし、淺き契りの友なりとても、友といふうちならば、そのひとのうへの存亡に、かゝはる計のことならばいふべし、すべてしひてかくせん、かくすくひてんと、まげてもと思ふは、みな中道には背けりといはん、たゞその所長を友とすれば、まじはりがたき人もなく、われに益なき友もあらず、かの友によてわがかたのみだれんとするは、皆その短を友とする故なりと、こたへしものありきとや、

善友惡友

〔書言字考節用集八言辭〕良友（リヤウユウ）

〔伊勢物語上〕むかし、をとこ、いとうるはしき友ありけり、

〔拾芥抄下本諸教誡〕源信僧都四十一箇條起請

應重禁制條々略中

一與惡友不可好交略中

已上四十一箇條、可如眼精矣、

〔徒然草上〕友とするにわろき者七あり、一にはたかくやんごとなき人、二にはわかき人、三には病なく身つよき人、四には酒をこのむ人、五には武くいさめる人、六には虛言する人、七には欲ふかき人、よき友三あり、一には物くるゝ友、二にはくすし、三には智惠ある友、

心友面友

〔早雲寺殿廿一箇條〕一よき友をもとめべきは、手習、學文の友也、惡友をのぞくべきは、碁、將棊、笛、尺八の友也、是はしらずとも恥にはならず、習てもあしき事にはならず、但いたづらに光陰を送らむよりはと也、人の善惡みな友によるといふこと也、三人行時かならずわが師あり、其善者を撰て、是にしたがふ、其よからざる者をば、是をあらたむべし、

〔翁問答上本〕師○貝原益軒の曰、○略中朋友はたがひに信をもて相まじはる道とす、信はいつはりなく義理にかなふ德なり、友達のまじはりに、心友面友の差別、情義の親疎、さま〳〵ありといへども、